

巻頭言

秋の共進会を終って

蔵 知 毅

年中行事である畜産の祭典も、中国6県の連合畜産共進会を最後に、その全部を無事終了したわけである。

連合共進会に於ては幸い本県は優秀な成績を得ることができたことは、畜産農家の皆様方と共に御同慶に堪えない次第である。

共進会の持つ意義については、今更申上げる必要もないが、年々の共進会に於て、著しい家畜改良の跡が見受けられることは、洵に心強いことである。特に本年は6県共進会が開かれたために、目標をこの共進会に集中して、優良な家畜を選抜したので、近年稀に見る優秀な家畜が出品されたことは、本県の家畜改良の実績を物語るものであって、畜産農家の方々の平素の御努力に対して敬意を表するものである。

農林行政全般から考えた場合、畜産の占める地位もようやく他産業に肩を並べられるものになり、今後益々その発展が期待されるわけである。同時に和牛に於ては生産県として、より一層優良な犢の生産に努力しなければならないし、その改良に意を用いなければならないわけであるが、今秋の共進会の成績は、本県産牛の優秀性を天下に示したことにちなるのであって、本県の畜産の発展上に大いに利する

ところがあつたと思うのである。

然し乍ら本県の畜産を更に発展させるためには、今回の共進会の内容を深く比較検討して、その弱い部門に対して、より積極的に援助を加え、全体のレベルの向上に努めなければならないのである。又共進会そのものも、更に内容を検討して、広く農家の人々全体が喜んで集り、楽しい意義のある集いにしたいものとするのである。

何はともあれ、次回の連合共進会は岡山県で開かれることである。今から次回の共進会に備えて、計画的に改良を進め、全家畜に於て優秀な成績を獲得することができるように、更に1段の御努力をお願いする次第である。